

# 神川中学校への想い



錦江町立神川中学校  
校長 永尾 寿雄

神川中学校61年間の歴史があとわずかで幕を閉じようとしています。閉校という重要な節目に携わることには私自身にとっても貴重な思い出であり多くの感動を体験することが出来ました。

神川中学校は平成に入ってから「環境教育」の伝統校として県内に名を馳せています。「カワゴロモの研究」等で全国レベルの受賞も数多くしており、その当時の偉業は記念碑という形で校門横に建立されています。現在も伝統は引き継がれており大気観測は全生徒が輪番制で毎日記録をとっています。総合的な学習の時間を利用して水質調査や水生生物調査等に取り組んでいます。

沿革史を紐解くと過去には剣道・テニス・野球・バレー・陸上等、部活動での輝かしい歴史を築いた時期があります。本年度は、8月に多くの卒業生の参加のもと、閉校の集いを開催しました。公民館と一体となり盛大な閉校行事を行うことができ、校区民の母校に寄せる熱い



全校生徒による人文字

想いをひしひしと感じることができました。もちろん、生徒達も伝統芸能「田の神踊り」を閉校の

集いや町文化祭で披露し大きな感動を与えてくれました。「神川浜つ子宣言」で育った生徒達です。錦江中学校になってもその精神を大いに発揮し、生活してくれることを期待しています。

例えば学校はなくなっても子どもたちは地元に住んでいます。神川は地域の教育力にすばらしいものがあります。今後も保護者・地域が一体となって子どもたちの成長を見守り指導してください。このようなすばらしい子どもたち、保護者、地域に出会えたことに感謝します。

## 錦江町立神川中学校

生徒会長 林 大智

閉校を迎える今年には、様々な行事がありました。中でも特別な行事として四月下旬、地域の方のご厚意により、神川中学校、地域子供育成会による田植えがありました。田植えや田車押しを初めて経験した友達が多く作業はなかなか思い通りにいきませんでした。そして、収穫したお米は「閉校記念に集う会」で、来られた方々におにぎりにしてふるまわれました。もちろん僕たちも食べ、自分たちで作ったお米はひと味もふた味もちがった気がしました。

九月の最後の体育祭では、地域の方々も一緒に「神川中学校ありがとう」の人文字をつくり、航空写真撮影をしました。十一月には文化祭があり、全校生徒が一つ一つの役割に全力で取り組み、最高の舞台発表となりました。これら一つ一つの行事はどれも最後であるということから一生忘れることのない貴重な経験となりました。残された短い期間を神川中学校最後の在校生として悔いのないよう責任を持って過ごしたいと思います。

## 閉校式実行委員長 桑原 景治

中学校制度が敷かれてから六十一年間の歴史を刻んできた我らの学び舎「神川中学校」も児童生徒の減少に伴い、いよいよ閉校を迎えることになりました。

私たちにとって神川中学校といえば神川大滝を懐に大河流るる神之川と白浜青松に囲まれた風光明媚、自然豊かな自然環境に抱かれた学び舎という思いを強く持ちます。昭和五十五年には現在の鉄筋校舎に建て替えられましたが、中学校は地域発展の中心として今も昔も変わらぬ確固たる存在感がありました。

閉校と言いますと一抹の寂しさはぬぐえません。私たちは歴史と燦々と輝く伝統を育んだこの我が母校の閉校を社会の現実と受けとめつつも悲しさを昇華して、今世紀に新たな歴史と伝統を刻み始める新設錦江中学校に神川の子どもたちの未来を託したいと存じます。

最後になりますが、平成二十年三月二十一日の閉校式までの記念事業への皆様のご協力ご支援を引き続きお願い申し上げます。



「心カツ」の花文字



現在の校舎



昭和55年の校舎



神中生としての最後の体育祭



閉校記念に集う会

